

御 所 平 遺 跡

平成16年度県営中山間総合整備事業御柱の里地区
農道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 5

長野県富士見町教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成16年度県営中山間総合整備事業御柱の里地区農道工事に伴い、諏訪地方事務所の委託を受け、富士見町教育委員会が行った御所平^{ごしやひら}遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は10月25日から12月2日、整理作業は12月2日から翌年2月10日まで行った。
- 3 発掘調査は樋口誠司・小松隆史が担当した。また本書の執筆、編集は樋口誠司が行った。
- 4 本報告にかかわる出土品、諸記録は井戸尻考古館が保管している。
- 5 遺構の番号については、昭和46年ならびに平成15年調査の続きを付した。
- 6 調査担当者および発掘作業員は以下のとおりである。

調査担当者	樋口 誠司	小松 隆史				
発掘作業員	朝香 輝朗	植松 好秀	川上小夜子	小平 辰夫	小林ノリ子	
	小林 道子	小林やす子	佐藤 裕子	名取 良平	平出 文子	

1 遺跡の環境と調査の経緯

御所平遺跡は、入笠山東麓に位置する。一帯は入笠山より押し出された砂礫層が堆積しており、宮川に向かって緩く傾斜している。遺跡はその付け根の平坦部にある。ここからは八ヶ岳の広大な裾野を一望する。御所という地名の由来は不明であるが、すぐ北の太郎門という地帯を経て、上伊那郡高遠町の芝平集落へ通じる古道の入り口であり、平安時代後期にはすでに利用されていたと推測される。

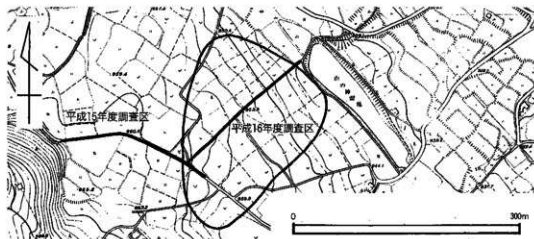
昭和46年、道路の新設工事の際に平安時代の住居址1軒と縄文時代中期中葉～末葉の土器が検出され、平成15年には同路線の道路改良工事で、隣接する御所平北遺跡を含めて、平安時代の住居址1軒と縄文時代中期中葉の住居址1軒及び後葉の住居址2軒などを発掘している。

今年度は中山間総合整備事業の道路改良工事に伴い、県土地改良・県教委・町教委の協議により、平成15年に実施した調査区に直交する道路分（山ノ神南縦線）について緊急発掘調査を実施することとなった。

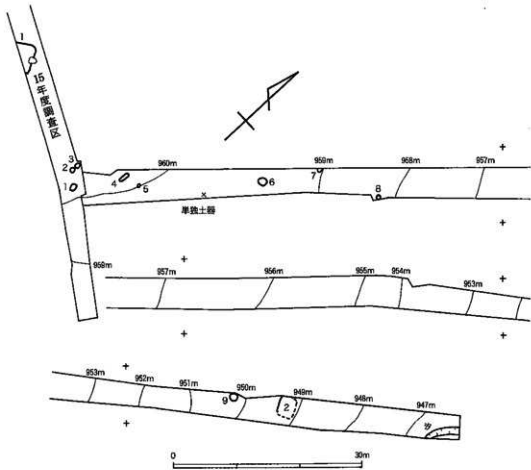
住居址

2号住居址 本址は山の神溜池のある東側から、重機による表土層の除去作業の際に検出された。堆土は砂礫を多く含んだ黒褐色土で、北に寄って焼土と灰釉陶器の破片が出土した。北及び西側からは低い壁が確認され、西側には幅の広い周溝がある。床は礫泥じりのロームで、総じて同く、東に緩く傾斜している。

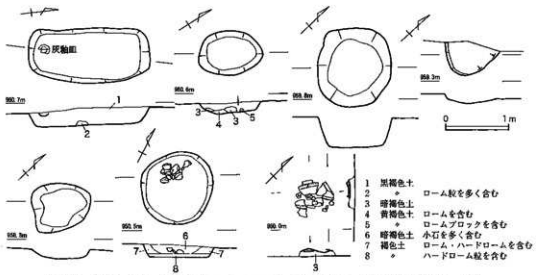
竈は壊されてしまったのか、見当たらない。どうやら北側の壁に接して見つかった焼土が竈の火床らしい。中心で4cm厚に地山が焼けている。



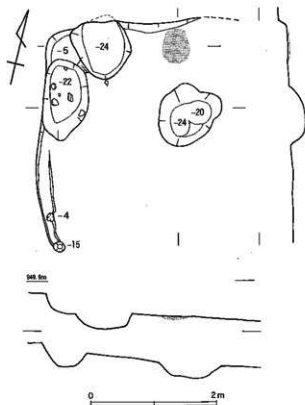
第1図 御所平遺跡周辺地形図（1：5000）



第2図 調査区全体図 (1:600)



第3図 小堅穴ほか 上段左より4・5・6・7号, 下段左より8・9号, 単独土器 (1:60)



第4図 第2号住居址 (1:60)

縄文時代の土器片が数片入っていた。穴の周囲は礫混じりのロームで、しっかりしている。底も礫面だが、総じて平らである。

7号小竪穴 この辺りは地山礫が露出していて、穴の底は不平らである。堆土は、黒褐色土に小礫を多く含んでいる。縄文時代中期初頭の九兵衛尾根式の土器片が出土した。

8号小竪穴 不整の円形で、炭粒を少し含む褐色土が詰まっていた。

9号小竪穴 直径1.2mの円形を呈する。4cmの厚みで平らに叩き締められた底面の上には、拳〜掌大の緑色石が散在していた。南側にもいくらかあったが、遺構を確認する際に攪乱と誤認して除いてしまった。肥溜穴と思われる。

単独出土の土器 縄文時代中期前葉の新道式の深鉢1個体分と有孔鈎付土器の破片が、ロームの面から8cmのところまで潰れた状態で検出された。下部を精査したがなにもなかった。

北西の角には小竪穴が2基あり、このうち西側の小竪穴は埋められて堆土はしまっていた。底に接して拳大の安山岩礫が2個あった。2基とも底は平らで固い。竪穴の南の小竪穴は筒状を呈し、砂礫混じりの黒褐色土が入っていた。

出土した遺物は少なく、北西の小竪穴の上面に散在していた灰釉と甕の破片だけである。

小竪穴ほか

4号小竪穴 隅丸の長方形で、南側の辺が外側にいくらか膨らんでいる。南西側に寄ったところに灰釉の皿が正位に置かれていた。

5号小竪穴 4号の東南1.2mにあり、楕円形を呈する。底は概ね平らである。

6号小竪穴 小礫混じりの暗褐色土で



調査区近景（西より）



4・5号小墜穴



9号小墜穴



単独出土の土器



2号住居址（北より）

報告書抄録

ふりがな	ごしょだいらいせき							
書 名	御所平遺跡							
副 書 名	平成16年度県営中山間総合整備事業御柱の里地区農道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻 次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編 著 者 名	樋口 誠司							
編 集 機 関	富士見町教育委員会							
所 在 地	〒399-0214 長野県諏訪郡富士見町10039-4 電 0266-62-2400							
発行年月日	西暦 2005年 3月20日							
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
ごしょだいらいせき	ながのけん ごしょだいらいせき	203629	26	35度	138度	20041025	820	農道整備
	ふじのみ			55分	12分	～		
	ふじのみ			17秒	24秒	20041203		
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
御 所 平	集落	縄文時代 平安時代	小竪穴 3基 竪穴住居址1軒 小竪穴 2基		土器片 土師器・灰釉陶器			

御所平遺跡

平成16年度県営中山間総合整備事業御柱の里地区
農道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005年3月20日

発行 富士見町教育委員会

印刷 ほおずき書籍(株)

長野市樽原2133-5
TEL (026) 244-0235
